



Message for you

いつも言葉をさがしている。

今欲しい言葉がどこかにあるかもしれない。

誰かにかけてあげたい言葉が見つかるかもしれない。

それは、

考えをまとめるヒント、だったり、

一歩踏み出すきっかけ、だったり、

生きる希望、になったりもする。

たくさんの言葉の中で、

いつも言葉をさがしている。

そうして見つけた言葉が、きっと自分を作っていく。

Message for you

『365日のスプーン』

著 者／おーなり由子

出版社／大和書房

出版年／2016年（新装版）

請求記号／914.6||O 65

一日一ページずつに書かれた、スプーンひとさじの幸福なことば。その一ページのその一つの言葉が、今日の自分に必要だと思えたり、心をまるくしたりしてくれます。今日の言葉は、どんなお味でしたか？



『誰も知らない世界のことわざ』

著 者／エラ・フランシス・サンダース

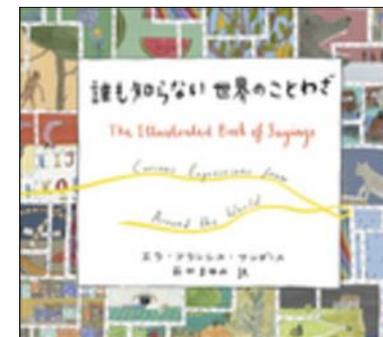
訳 者／前田まゆみ

出版社／創元社

出版年／2016年

請求記号／388.8||Sa 62

ページをめくると世界のことわざを楽しむ旅の始まりです。ポップなイラストが添えられて、楽しく読み進めることができます。初めて出会う世界のことわざから、新しいものの見方を発見できる一冊です。



Message for you

『お寺の掲示板』

著 者 / 江田智昭

出版社 / 新潮社

出版年 / 2019年

請求記号 / 180.49 || E 21

お寺の門前にある掲示板に書かれた言葉を紹介した一冊です。思わず笑ってしまう言葉から心にささる言葉まで、印象的な言葉がたくさんつまっています。手書きの文字に込められた想いが感じられます。



『いきもの人生相談室』

動物たちに学ぶ47の生き方哲学』

文 / 小林百合子

絵 / 小幡彩貴

出版社 / 山と溪谷社

出版年 / 2018年

請求記号 / 159 || Ko 12

この本で人生相談に答えてくれるのは何と動物です！動物の生態や行動という視点から物事を考えてみると、新しい気づきがありました。巻末には、この本に登場したいきものの図鑑もあります。

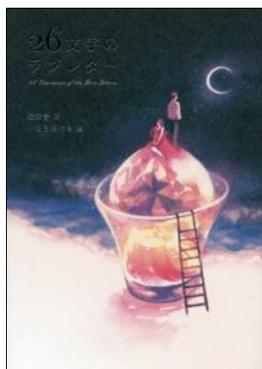


Message
for
you

『26文字のラブレター』

編／遊泳舎
絵／いとうあつき
出版社／遊泳舎
出版年／2019年
請求記号／911.66||189

この本では、恋愛にまつわる都々逸(どどいつ)が紹介されています。都々逸とは、江戸時代の終わりから明治時代にかけて流行した「7・7・7・5」の形式の唄のことです。添えられた絵が、都々逸に込められた感情をより豊かに伝えます。



『思えば、孤独は美しい。』

著 者／糸井重里
出版社／ほぼ日
出版年／2017年
請求記号／914.6||191

コピーライターの糸井重里さんの言葉の本。短い言葉、ちょっと長い言葉、それから写真や絵も味わうことができます。一人の人の言葉でも色々な表情があって、どこから読んでも引き込まれる一冊です。



Message
for
you

『101人が選ぶ

「とっておきの言葉」』

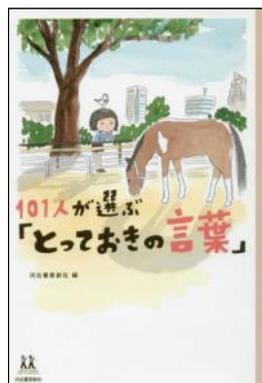
編 者／河出書房新社

出版社／河出書房新社

出版年／2017年

請求記号／159.8||Ka 92

小説家、俳優、スポーツ選手など、様々な分野で活躍する101人のとっておきの言葉を紹介する一冊。その言葉を選んだ理由を知ると、言葉の持つ力の強さを実感します。あなたのとっておきの言葉は何ですか？



『岐路の前にいる君たちに

鷺田清一式辞集』

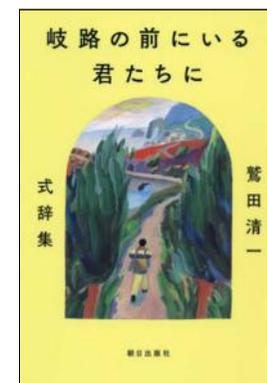
著 者／鷺田清一

出版社／朝日出版社

出版年／2019年

請求記号／377.21||W 42

哲学者・鷺田清一さんが、大阪大学、京都市立芸術大学の入学式・卒業式で贈った8年間の言葉。願いが込められたメッセージは、今の自分にどのように響くのでしょうか。じっくりと読んでみてください。



Book design

の世界

vol.23

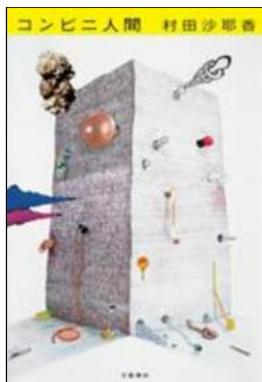
関口 聖司 さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第23回目は、関口聖司さんです。

今回は、関口聖司さんが手掛けられた装丁をご紹介します。



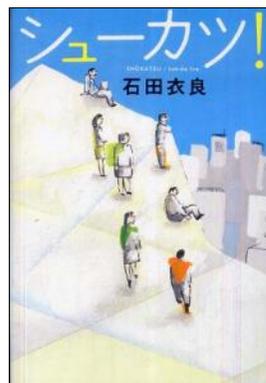
作品：金氏徹平
『溶け出す都市、空白の森』より
装丁：関口聖司

初めにご紹介する『コンビニ人間』（村田沙耶香著／文藝春秋／2016年／913.6||Mu 63）は、第155回（2016年）芥川賞受賞作です。一見すると全体的にポップな印象の装丁ですが、よく見ると奇妙な空気を感じます。装丁に使われている作品は、現代美術家の金氏徹平さんによるものです。『コンビニ人間』の持つメッセージが装丁からも伝わってくるようです。

第153回（2015年）芥川賞受賞作である『スクラップ・アンド・ビルド』（羽田圭介著／文藝春秋／2015年／913.6||H 11）も関口さんによる装丁です。写真家・広川泰士さんの写真が使われています。読み終わった後、タイトルの意味を考えながら、じっと見つめたいような装丁です。



写真：広川泰士
『BABEL ORDINARY LANDSCAPES』より
装丁：関口聖司



装画：北村人
装幀：関口聖司

続いて『シューカツ!』（石田衣良著／文藝春秋／2008年／913.6||I 72）をご紹介します。作品に登場するシューカツプロジェクトチームの7人を思わせる装画は北村人さんによるもの。希望や不安に揺れ動く感情が現れているようで、登場人物が身近に感じられるような装丁です。

『キャプテンサンダーボルト』（阿部和重、伊坂幸太郎著／文藝春秋／2014年／913.6||A 12）。自然の中にあるパイプラインの撮影で知られる石塚元太良さんの写真が使われていて、雷のような形に目を引かれます。ロゴと写真の組み合わせがかっこいい装丁です。



写真：石塚元太良
装丁：関口聖司



写真：藤里一郎
装幀：関口聖司

最後にご紹介するのは『死神の精度』（伊坂幸太郎著／文藝春秋／2005年／913.6||I 68）です。こちらには、藤里一郎さんの写真が使われています。映画のポスターのような洗練されたデザインです。背表紙、標題紙、目次、本のどこを見てもおしゃれな装丁です。

今回ご紹介した関口聖司さんの装丁の本は、どれも部屋に飾りたくなるような洗練されたデザインのものばかりでした。物語の奥深さを感じさせる装丁に思わず引き込まれてしまいました。



ちょこちょこ日記 #33 「心に残る会話」

今号では「Message for you」をテーマに本を紹介しました。
すてきな本の中から、あなたにとって心に残る言葉が見つかったらいいなと思います。

私にとって心に残る言葉は何だろうと考えてみました。

学生時代、アルバイトをしていた時のことです。私は、大変だ、楽しくない、そんな風に思いながら仕事をしていました。ある日、他の仕事と掛け持ちをされているパートの方と話をしている時に、私は「2つも仕事をするのは大変じゃないですか?」と聞きました。すると、パートの方は「この仕事も楽しいから続けたいんですよ」と言われて、私はとても驚きました。私が楽しくないと思っている仕事を、この方は楽しいと思いつながらされていると知ったからです。それから私は、自分の人生を楽しくするのは自分自身なんだ、と思うようになりました。私は今でもこの会話のことをたびたび思い出します。

次号 No.94は、2022年4月発行予定です。

こんな本読んでみて No.93

2022年2月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>